

ちわい

2013

お盆号

VOL.138

浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺

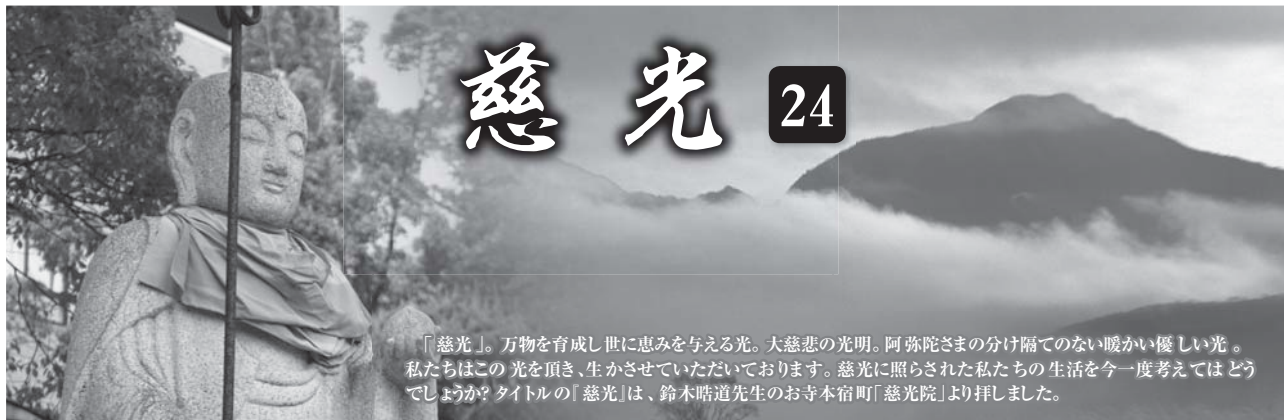


◆ お練供養 (當麻練渡) ◆

◆ 目次 ◆

- 慈光 〈第24回〉
- 賢問子行状記 ⑧
- お釈迦さまのご生涯 11
- 當麻練渡をお参りして
- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ③②
- 総本山誓願寺だより〈少年少女参拝団〉
- 何でも“お寺探偵団”Vol.36

日照山法雲寺



「慈光」。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿彌陀さまの分け隔てのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？ タイトルの「慈光」は、鈴木皓道先生のお寺本宿町「慈光院」より拝しました。

【三明（明るい心）】

念佛を信じて生活をする人は「三明」と申して、明るい心になるとお経に説かれてあります。

三明の一番は、宿命通しゅくみょうつうと言って、過去を反省する心です。「自分は間違いない正しい人間だ」と思うのは全く自惚うぬぼれで、主としてこの人は法律的な罪を指しているのです。

罪には宗教的な罪と言って、佛のお心に反した行いがあり、道徳的な罪と言って、人の道を外す罪があるのです。

この様に、深く多面的に考えると私どもは、正しい人間にはほど遠いのです。そのような罪をなし、悪を重ねてきた自分であつたと、

反省出来る人が、宿命通の人です。

二番目は漏盡通ろうじんつうと言って、一日を和やかに暮らそうと気付く人です。しかし社会は共同生活であり、対人関係が絡み、理想通りの日暮らしは難しいのです。

私が追突事故に遭った時に、相手の青年が詫びの一言も言わぬので、思わず強く言葉を荒げてしまったのです。この様に、人間関係は、難色一杯ですが、ホッと一息ひといきつく「心のゆとり」、「心の幅」が欲しいものです。なかなかできないことですが、この気持ちを常に心がけている人が、漏盡通の人とも言えます。

三番目は、天眼通てんげんつうと言って、未来を明るく、執らわれている心を「考え直す」

心です。

四十五年ほど前の出来事ですが、手紙でお参りを約束し、その日に訪問したところ、「手紙は来てません」と何回も言うので、「それでは郵便局へ行き、その帰りにお伺いします」と言うと、急変して、「手紙は来てました」との事です。その方は、何かに執られていたのです。

感情利害に執られる心を少しでも思い留まり、考え直す生活が天眼通でしょう。

この三つの明るい心は、自分の力ではなく、佛さまのお導きです。

明るい心を忘れないで下さい。

布教講習所 所長
慈光院 住職
鈴木 皓道

賢問子行状記 8

宝蔵寺住職 小島英裕

第五話

「芥子国、日本に渡る」

(前編)

皇帝より舟が出され、芥子国は日本に着きました。奈良まで来て、使いの人が帰ったので、一人ぼっちになりました。芥子国は心細く、ただ一人で奈良の町を巡り、父・賢問子の居場所を探しました。ところが、幼い上に言葉が通じません。賢問子を知る人がいるはずなのに、居場所は分かりませんでした。

日も暮れ、方角も分からず、町角にたたずみ、しくしくと泣いていました。そこで母に教えられた春日明神さまに手を合わせ祈りました。「幼いのに、母の言葉に背き、大きな望みを立て、母と別れ見知らぬ国に一人で来てしまいました。もしかして父に会えない

かもしれません。春日明神さまのお力で、どうか父の居場所を教えてください。父に会わせて下さい」。

すると祈りが通じたのでしようか、七十過ぎの白髪の老人が、芥子国の前を通りがかりました。小さな子の悲しむ声を聞きつけ、芥子国に唐の言葉で話しかけました。「坊や、なぜ泣いているの。話してごらん」と言われ、はっと顔をあげました。芥子国は、「私は唐より参りました。父に会いたいの、荒れる海をも恐れず、日本に来ました。しかし言葉が通じず、ただ私を憐れむ人がいても、父の居場所を教えてください。人はいませんでした」。老人は話を聞き、「心配しなくていいよ、お父さんに会わせてあげよう。私について来なさい」と言うと、芥子国を春日大社に連れて行き、拝殿に座らせました。「これこそが、あなたがまだが日頃より信じている春日明神さまだ

よ。私も一緒にいてあげたいが、用があるの。先に帰るよ。お腹が減るだろうからこれをお食べ。明日の朝、役人が五、六人来てあなたを迎えにくるよ。怖がることはない、お父さんに会えるのだから。あなたを見守っているよ」と言うと、姿を消しました。夜が明けると、老人が言った通り、役人が五、六人来て芥子国を連れて行きました。芥子国は春日明神さまのお導きだと思い、ついて行きました。

芥子国を役所に連れて来て、通訳を通じて詳しく話を聞きました。しかしこの時、賢問子は、牢獄の中にいたのでした。(つづく)



春日大社 (中門)



涅槃に入られるお釈迦さま（法雲寺蔵釈迦涅槃図）

お釈迦さまのぐ生涯 11

文・釈尊法話会

涅槃（前編）



三十五歳で覺りを開かれてから四十五年、お釈迦さまも八十歳になられました。阿難尊者を始めとする五百人の弟子を連れて、摩訶陀国の王舎城から遊行の旅に出發されました。

王舎城からパーヴァー城に着いた時に、鍛冶屋のチュンダが所有するマンガロー園に入られました。チュンダはお釈迦さまがいらつしゃっていることを聞き、すぐにマンガロー園に赴き挨拶をして、お釈迦さまに説法をお願いしました。お釈迦さまは、願いを快くお受けになり、チュンダの為に説法をなされたのです。

翌日、説法のお礼に、沢山の御馳走を用意し、お釈迦さまと弟子たちに供養しました。その食事の中に豚肉が入っていたのです。お釈迦さまは弟子たちに、

「この豚肉は私以外に消化することが出来ない。お前たちは食べてはいけない。すぐに地面に埋めなさい」

と仰り、弟子たちには食べさせませんでした。しかし、チュンダからの供養であつたので、お釈迦さまはお食べになりましたが、高齢の為、体調を崩し、腹痛に悩まされることとなりました。

チュンダの元を後にしたお釈迦さまは、拘尸那竭羅に向かつて旅を続けられました。激しい腹痛と下痢に悩まされ、次第に体力は奪われていきます。それでもお釈迦さまは弟子たちに抱えられながら、遊行の旅をやめませんでした。拘尸那竭羅に向かつて一歩一歩お進みになりましたのです。（続く）

当麻練渡をお参りして

布教講習所の特別研修として、奈良県葛城市の当麻寺に参拝しました。毎年5月14日に勤められる「当麻練渡（お練供養）」は千年の歴史がある伝統行事で、国の無形民俗文化財に指定されています。当麻寺は創建より1400年の古刹です。更に、奈良盆地の一番西にあることから、遥か西方にある極楽浄土の入口として古より厚く信仰されてきました。驚いたのは、当麻寺のご本尊は仏像ではなく「当麻曼荼羅」という極楽浄土の様子が美しく描



観音菩薩（すくい仏）

かれた、4m四方もある巨大な織物の絵であるということです。その当麻曼荼羅を蓮糸で一夜にして織り上げた中将姫が二十五菩薩に迎えられ極楽浄土に往生されました。その伝説に基づく伝統行事が今年で1009回目を迎えた当麻練渡です。

開始2時間前に到着しましたが、沢山の屋台と多くの人々で賑わっていました。当麻練渡が始まる頃には、本堂（極楽浄土）から娑婆堂（現世）に架けられた長さ100m程の来迎橋付近には人が押し寄せ、身動きが取れなくなりました。優雅な雅楽が流れるなか、来迎橋を歩いてくるお稚児さんの可愛さに喜んでいると、金色まばゆいお顔と光背の二十五菩薩が次々と通り過ぎ、まさに極楽浄土からの来迎です。最後に登場した観音菩薩と勢至菩薩は特に印象的でした。観音菩薩（すくい仏）は手に蓮台を持ち、左右にすくい上げる動作を繰り返し、続く勢至菩薩（おがみ仏）は合掌した両手を左右に振る上げる動作を繰り返します。この独特の動きで練り歩く姿には思わず目を奪

われ、別世界に引き込まれました。娑婆堂に辿り着くと中将姫を蓮台に乗せて、本堂へ帰っていきます。二上山に沈む夕日が境内を照らし、あたり一帯が茜色に染まり、本堂に向かう二十五菩薩の金色のお顔と光背が夕日に照らされ美しく輝きました。その光景が忘れられません。

今回当麻練渡を参拝し、極楽浄土を思い描きました。流祖西山上人は、この当麻寺で当麻曼荼羅に出会い、感動の余り、世の中に広められました。そのお陰で自坊にも当麻曼荼羅が伝わっています。これを機に、当麻曼荼羅について勉強したいと思います。合掌

布教講習所 講習生 半田了靖



勢至菩薩（おがみ仏）



二十五菩薩



二上山



稚児行列



東龍寺 住職 岩瀬 賢良

インドタタ 夫婦道中記 32

長距離の移動は 寝台車で…

ジャルガオン駅前の通りに大衆食堂があったので、僕たちはその一軒の店に入った。昼少し前だったせいか、薄暗い小さな店には中年の男性客一人しかいなく、その客がお好み焼きのような物を食べていた。僕たち二人はインドで初めて見る食べ物だったので、それは何かを店員に聞いて同じものを注文した。『ウッタパ』という名前の食べ物で、混ぜる材料によって何種類がある。そのうちの『トマト・ウッタパ』と『オニオン・ウッタパ』、そしてチャイを頼んだ。さすがに醤油味^{しょうゆあじ}やソース味ではなかったが、なかなか美味しかったし、ふたりとも16ルピー（約40円）という安い食事にありつけた。最後にラッシー（飲むヨーグルト）を頼んだのだが、これも16ルピーで、それまでほとんど飲んでいなかったのが、平均的な値段は把握しておらず、

16ルピーが高いのかどうか分からないうが、それに比べるとウッタパはお得な一品であった。もう一つ記憶に残しておかなければならない事がある。店にカメラを置き忘れ、そのまま駅に向かって歩いていたら、その店の主人らしき男性が走ってきて、カメラを手渡してくれ、本当に助かった。もしまた訪れることがあるなら、もう一度その店に立ち寄りたいものだ。

昼過ぎに今回の旅の大義である、ヒンドゥー教の聖地ヴァラナシに向かった。寝台車とはいえ、昼間は一般客も乗車するはずなのに、混雑もなく、向かいの席は空席で終始ゆったりと座れた。

夜になって、僕たちのボックスで寝台を利用するのは、ムンバイ（旧ボンベイ）からヴァラナシに行くという、中年の品の良い婦人だけだったので気が楽だった。夕食の注文を聞きに乗務員が回って来たので、僕たちは25ルピー（約63円）の野菜の駅弁を二

つ頼んだ。数日前の列車の食事に比べると、今回は安くて、しかも食べ易かった。

到着予定時刻が午前9時15分と遅かったもので、気楽に眠ることができた。トイレと洗面所で用を済ませ、寝袋をたたんでバグゲージに収め、ベッドとして鎖で水平に吊っていた背もたれを元の状態に戻した。そして、向かいの席の婦人とお互い持ち合わせたお菓子や果物を出し合ってくつろいでいると、タイミング良くチャイ売りがやって来た。チャイを飲みながらヴァラナシ駅への到着を待った。

*「バナナラス」、「ベナレス」とも言う。



夜行列車で同席した女性（左）

総本山誓願寺だより

少年少女参拝団 参加者募集

毎年夏休みに行っています。本年は八月二十日(火)～二十一日(水)の二日間が日程となり、小学五～六年生を対象に八十名を募集予定としております。定員になり次第お断りさせていただきます。各寺院へ募集要項をお知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



〔訂正〕
前号発行の137号『彼岸号』に誤りがありました。8ページ「何でもお寺探偵団」の石原住職のご紹介で、「校長先生」を「教頭先生」に訂正して下さい。お詫び申し上げます。

おもな行事予定

- 八月**
- 十五日(木) 六阿弥陀功德日
 - 十六日(金) 精霊送り・盆施餓鬼
 - 二十日(火)～二十一日(水) 少年少女参拝団
- 九月**
- 十八日(水) 開山歴代忌六阿弥陀功德日
 - 二十日(金)～二十六日(木) 秋彼岸
- 十月**
- 六日(日) 策伝忌
 - 八日(火) 六阿弥陀功德日
 - 十日(木) 念珠供養会
- 十一月**
- 二十四日(火) お身拭式六阿弥陀功德日
 - 三十一日(火) 除夜の鐘
- 十二月**
- 二十日(水) 総本山西山忌
 - 二十四日(日) 六阿弥陀功德日

クイズコーナー

【問題】

インドドタバタ夫婦道中記で、大衆食堂で注文したラッシーは何ルピーでしょう。

□ ルピー

官製はがきに、答えと郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、ハガキにてご本人にご連絡致します。名前の掲載の困る方は、その時にご返事下さい。今回は、法雲寺さまより文箱、経本数珠入、本山謹製香をそれぞれ5名の方、合計15名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒四四四-〇三二四

西尾市下矢田町郷二

養寿寺内 ちかい編集係

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】九月三十日
(消印有効)

ちかい 第138号

発行日 平成二十五年七月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二-〇九五八
FAX (〇七五) 二二二-二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でも

お寺探偵団

法雲寺
ほううんじ

Vol.36



profile

こ じま じゅん ゆう

小島淳祐師 (法雲寺 第32世) 昭和38年生まれ(49歳)

京都西山短期大学卒業後、会社勤務を経て平成9年法雲寺に戻る。平成19年晋山。現在傾聴僧の会会員。

今回は京都市北区の「日照山

法雲寺」を訪ねました。

Q1

お寺の由来を
教えてください。

天正19年(1591)、長翁玉春上人によって開創されました。秀吉公は、母大政所の信望厚い玉春上人に、聚楽第近くの四条大宮に約600坪の赦免を与えました。上人は堂宇を建立し、日照山法雲寺としました。当時境内地に多くの八重桜が植えられました。

ところが、天明8年(1788)正月、御所の大火の余波を受け、堂宇が消失しました。その後、約100年間仮本堂と庫裏でしたが、明治34年(1901)3月、東本願寺勅使御門建立時の棟梁、伊藤平左工門が現在の本堂を

完成させました。

古くから桜の名所として知られていましたが、都市計画により境内地が減り、市民に親しまれた桜並木もなくなりました。四条大宮では駐車場の確保など多くの問題がありましたので、昭和58年(1983)11月、現在地北区西賀茂に移転しました。

境内から五山の送り火である右大文字が見えますので、毎年8月16日にはお寺を開放しまして「大文字送り火の会」を開催しています。

Q2

お寺の宝物は
何ですか？

狩野常信作のお釈迦さまの仏画(常信釈迦)、釈迦涅槃図、西賀茂観音、子養育地藏菩薩

があります。

西賀茂観音は、総高10メートルの一刀彫、国産石の十一面観音菩薩としては日本一の高さを誇ります。

子養育地藏菩薩は洛陽地藏菩薩霊場第二十九番札所となっています。

Q3

お坊さんとしての心掛けは何ですか？

「和尚さんにお話を聞いてもらって良かった」と思って頂けるように、お言葉一つ一つを噛みしめ真剣に聞いています。

Q4

「ちかい」読者に
何か頂けませんか？

文箱を5名様、経本数珠入を5名様に差し上げます。

【交通】

京都市バス西賀茂車庫行(1)(北2)(9)(快9)系統、「神光院前」下車、西へ350m

【主な行事】

修正会	1月1日、2日、3日
春彼岸会	3月 彼岸期間の日曜日
大文字送り火の会	8月16日
秋彼岸会	9月 彼岸期間の日曜日
十夜会	11月第一日曜日

【お問い合わせ】

日照山法雲寺
〒603-8846
京都府京都市北区西賀茂鎮守菴町30-1
TEL 075-491-7701
FAX 075-493-4961



釈迦涅槃図



常信釈迦



西賀茂観音



本堂



子養育地藏尊